

# 平成27年度 学校評価報告書

宮古島市立平良第一小学校

## I 教育目標 可能性をひらき・のばす(一人一人に、それぞれの可能性)

### II 前年度の成果と課題

○ 服務については、どの項目においても、良好であると考えられる。信頼される学校づくりに必要な事なので、今後も定期的に自己チェックを続けていきたい。

- 各種学力調査で、県平均に及ばない学年・教科が多い。特に、活用力を図る問題に課題がある。
- 体力テスト・泳力テストでは目標に届かない種目が多い、体育の授業の工夫改善を図る必要がある。
- 校内研修において、全校で共通に取り組む事項が必要である。
- 日常の情報共有及びそれに係る共通実践に課題が見られる。

### III 評価の方法

#### 1 評価の指標

学校職員による自己評価、保護者のアンケート、4年以上の児童によるアンケート及び各種調査の結果を評価の指標として設定する。

#### 2 評価の時期

(1) 7月に中間評価を行い、2学期以降の改善点等について夏期休業中に全職員で共有するとともに、保護者・地域に公開する。

(2) 12月に最終評価を行い、3学期の取り組みについて全職員で共有するとともに、次年度の改善点について、保護者・地域に公開し、市教育委員会に報告する。

### IV 評価の結果

<b>1 学校経営 【 総合評価 A 】</b> どの項目においても、ほとんどの職員が肯定的に回答しており、良好であると考えられる。信頼させる学校づくりに必要な事なので、今後も続けていきたい。教育公務員としての服装や言葉遣いについては、児童に指導する立場として見本となることを心がけたい。 職員間のコミュニケーションや学年協働の校内研修がC評価である。定期的な学年会の時間が設定できないため、話し合いの時間が取れていないことが原因の一つと考えられる。学年会を週時程に位置づけ、毎週1回は定期的に開催するなどの対応が必要だと考える。 1学期に起こった事故を反省し、それ以降は安全点検の強化を図ってきた。常に児童の目線で安全点検を行えるよう、安全点検の手順や留意事項等を再確認する必要がある。
<b>2 学び合う集団づくり 【 総合評価 A 】</b> 中間評価の結果を受けて栽培活動と積極的な生徒指導の充実に取り組んできた成果が出ている。 自治的な学級運営のための朝の会・帰りの会に課題がある。振り返り学習の位置づけで、6校時終了後にゆとりが無くなってきたという意見も見られるが、学級づくりに大きく影響することなので、学校全体で統一したプログラムを策定するなど、改善を図る必要がある。 相談活動についての児童・保護者の評価が改善しているが、児童に対応することが教員としての第一の職務であることを再確認し、さらに充実を図りたい。
<b>3 確かな学力の育成 【 総合評価 B 】</b> 計画的な地域資源の活用、45分授業の時間管理、週案の提出率向上への取組が必要。また、各種テストでの結果において、数値目標に届いていない。平均正答率も低いが、正答率30%未満(単元テストは50%未満)の児童も多く、個に応じた対策が必要である。 サマースクールの効果が出ないという意見がある、サマースクールの取り組み方を見直す必要がある。 B(主に活用)問題に課題が見られるが、過去問のB問題を取り扱っていない学級が多い。課題のあった問題に関しては年間指導計画に位置づけ、授業で取り扱うことを徹底したい。
<b>4 豊かな心の育成 【 総合評価 B 】</b> あいさつ・読書で保護者の評価が低くなっている、取り組みの工夫が必要。 体験的な学習を計画的に位置づけるとともに、道徳とリンクした年間計画の作成が必要。
<b>5 健康の保持増進・体力の向上と基本的な生活習慣の定着 【 総合評価 A 】</b> 児童の運動量は、体育の時間での改善は見られるが、昼休みの外遊びが減ってきている。全校で課題を共有し、昼休みの時間の確保、遊具の整備、ルール作りなどで、外遊びを奨励する工夫が必要である。 体力テスト・泳力テストでは目標に届かない種目が多い。体育の授業の工夫改善を図る必要がある。 早寝・早起きの生活リズムに若干課題が見られる。保護者との連携を工夫する。 食育の年間指導計画を見直し、全校で指導を工夫していく。

**6 学校・家庭・地域の連携について【総合評価 B】**

学校からの情報発信は概ね良好である。  
 PTA活動への保護者の参加率が低い。授業参観等はほとんど出席しているので、PTA行事等で参加したくなる工夫が必要だと考える。  
 朝のあいさつ運動は、保護者の出席率が悪い、全体的に取り組みを見直してみる必要がある。

**V 来学年で取り組む事項**

項目	担当	備考
安全点検の工夫・改善	安全	点検の視点、点検簿の見直し
朝の学習・放課後の振り返り、サマースクールの工夫	学推	学校としての統一性、つなぎを意識した取り組み
B問題(主に活用)の対応	学推	過去問を年間指導計画へ位置づけ
学年会の定期的開催および運営の工夫	学年	週時程に位置づけ、全校的な共通議題の設定
体験学習の年計への位置づけ	学年	特活・道徳・総合・生活等の関連
体育・音楽・総合・生活の年間計画の見直し	学年	運動会、学芸会への計画的な取り組み
栽培活動の計画見直し・実施	環境整備	教材園の活用年間計画を作成、実施
食育についての年間計画の見直し	給食	学校統一の給食マナー等の策定
週案を授業改善のツールとして活用する	教頭	週案提出率の向上
教育計画の充実	教務	計画を具体的に、共通理解を図る工夫
わかる授業(まとめまでぴったり45分間)	校内研	沖繩型授業づくり
校内研修の見直し	校内研	国語、算数、特活(学級づくり)
公開授業の実施	校内研	授業改善、自己申告授業、道徳の公開
あいさつ運動の工夫	生徒指導	保護者の参加、あいさつ強化
体育の授業の工夫改善	体育	学校としての統一プログラムの策定
体育(水泳)の授業の工夫改善	体育	高学年の水泳指導の見直し
昼休みの過ごし方、体育朝会の計画	体育	遊具の充実、ルール
朝の会・帰りの会・学級活動の工夫改善	特活	学級の自治力向上、居場所づくり

**VI 宮古島市教育委員会への要望事項**

- 1 魅力ある学校づくり補助金事業で、外部講師(筑波大学附属小学校教諭)を招聘して、授業改善を行い、校内研修の核となっている。事業の継続をお願いしたい。
- 2 楽器の購入及び遊具の設置は、多額の予算が必要になります、計画的に進めていきたいと考えています。ご高配をお願いします。
- 3 施設・設備の整備・管理に対して、素早い対応をいただき感謝しています。まだ、未対応の部分もありますので、よろしくお願いします。(別文書で要請済み)

【資料】

※ 質問紙による評価はA～Eの4段階で行ってもらい、そのうち、A(あてはまる)またはB(どちらかといえばあてはまる)と回答したものを「肯定的な回答」ととらえる。肯定的な回答の割合が75%以上をA、60%以上をB、60%に満たない項目をCと判定する。

1 学校経営 【 総合評価 A 】

どの項目においても、ほとんどの職員が肯定的に回答しており、良好であると考えられる。信頼させる学校づくりに必要な事なので、今後も続けていきたい。教育公務員としての服装や言葉遣いについては、児童に指導する立場として見本となることを心がけたい。  
 職員間のコミュニケーションや学年協働の校内研修がC評価である。定期的な学年会の時間が設定できないため、話し合いの時間が取れていないことが原因の一つと考えられる。学年会を週時程に位置づけ、毎週1回は定期的に開催するなどの対応が必要だと考える。  
 1学期に起こった事故を反省し、それ以降は安全点検の強化を図ってきた。常に児童の目線で安全点検を行えるよう、安全点検の手順や留意事項等を再確認する必要がある。

評価の指標	評価者	12月の結果(7月の結果)	意見・対応策等
-------	-----	---------------	---------

① 学年協働による個人研修、校内研修等を充実させ、教職員の資質向上と指導力の向上に努める。

学年協働により、単元研究を行った。	職員	B 62% (56%)	学年会の時間がとれない。
校内研修は学校課題解決・職員の資質向上に有効である。	職員	B 73% (82%)	回数が多く、振り返りができていない。

② 特別支援教育の組織的な推進・充実に努める。

特別支援教育について組織的に取り組んでいる。	職員	A 82% (100%)	
------------------------	----	--------------	--

③ 施設・設備・備品の充実を図り、教育環境の整備に努める。

教育活動に必要な、施設・設備・備品は整備されている。	職員	B 74% (70%)	整理不足
安全点検で教育環境の維持管理が図られている。	職員	A 93% (61%)	事故後は児童目線で点検
学校は、教育活動に必要な、施設・設備・備品が整備されている。	保護者	A 79% (77%)	
学校には学習に必要なものがそろっている。	児童	A 92% (93%)	

④ 公務員としての自覚を持ち、信頼される学校づくりに努める。

事件事故等には、速やかに適切に対応されている。	職員	A 93% (87%)	
会計管理は、適切に行なわれている。	職員	A 100% (90%)	
個人情報漏洩防止等、適切に管理されている。	職員	A 100% (100%)	
職員の身なり・態度・言葉遣い等は公務員として適切なものである。	職員	A 89% (65%)	言語環境を整える
報告・連絡・相談に留意し、組織的な運営がされている。	職員	B 74% (83%)	
来客対応・電話対応は、適切に行なわれている。	職員	A 93% (95%)	
出勤簿の押印、休暇処理等の勤務管理は適切に行なわれている。	職員	A 100% (96%)	
法令遵守等は、組織的に取り組まれている。	職員	A 100% (100%)	
職員とのコミュニケーションが円滑で、チームワークの向上が図られている。	職員	C 56% (77%)	
学校の方針について理解し、教育目標達成に向けて業務の工夫改善が図られている。	職員	A 93% (76%)	
PDCAのマネジメントサイクルのもと、計画的に業務が遂行されている。	職員	A 85% (58%)	
各分掌の連携が円滑に行われ、有機的に機能してる。	職員	B 74% (65%)	
絶えず研究と修養に努め、指導力の向上が図られてい	職員	A 85% (90%)	

2 学び合う集団づくり 【 総合評価 A 】

中間評価の結果を受けて栽培活動と積極的な生徒指導の充実に取り組んできた成果が出ている。  
 自治的な学級運営のための朝の会・帰りの会に課題がある。振り返り学習の位置づけで、6校時終了後にゆとりが無くなってきたという意見も見られるが、学級づくりに大きく影響することなので、学校全体で統一したプログラムを策定するなど、改善を図る必要がある。  
 相談活動についての児童・保護者の評価が改善しているが、児童に対応することが教員としての第一の職務であることを再確認し、さらに充実を図りたい。

① よりよい生活や人間関係を築く学級作りに努める。

学活や短学活を充実させ、自治的な能力の育成を行っている。	職員	B 76% (56%)	時間に追われ、帰りの会がうまくできない。
朝の会・帰りの会で学級の生活について振り返る時間がある。	児童	B 61% (67%)	
学級会では、みんなで学校の生活について話し合っている。	児童	B 69% (71%)	
集団活動を工夫し、人間関係を深めることに努めている。	職員	A 86% (76%)	
学級でみんなといろいろな活動することは楽しい。	児童	A 93% (90%)	
当番活動や栽培活動の充実を図り、責任感や自己存在感を持たせている。	職員	A 86% (63%)	栽培活動の充実
給食・係・掃除などの当番活動は責任を持って行っている。	児童	A 93% (89%)	
栽培活動を行っている。	児童	A 83% (73%)	

② 児童理解を基盤にした生徒指導・教育相談を定期的・計画的に推進する。

共感的態度を基本として児童に接し、信頼関係を築いた。	職員	A 100% (78%)	
児童理解をもとに、個に応じた指導・支援に心がけている。	職員	A 100% (71%)	
先生方は話をきいてくれる。	児童	A 83% (84%)	
教育相談週間は、有意義に行われている。	職員	A 93% (89%)	
学校は、あなたやお子さんの相談などに適切に対応している。	保護者	A 82% (74%)	
先生は、困ったときなど何でも相談にのってくれる。	児童	B 72% (67%)	
積極的な生徒指導で、問題行動等の未然防止・早期発見ができています。	職員	B 73% (56%)	見た目の変化にもっと素早く対応すべき。

3 確かな学力の育成 【 総合評価 B 】

計画的な地域資源の活用、45分授業の時間管理、週案の提出率向上への取組が必要。また、各種テストでの結果において、数値目標に届いていない。平均正答率も低いが、正答率30%未満(単元テストは50%未満)の児童も多く、個に応じた対策が必要である。  
 サマースクールの効果が出ないという意見がある、サマースクールの取り組み方を見直す必要がある。  
 B(主に活用)問題に課題が見られるが、過去問のB問題を取り扱っていない学級が多い。課題のあった問題に関しては年間指導計画に位置づけ、授業で取り扱うことを徹底したい。

① 「わかる授業」構築に向けた授業改善。

授業を公開し、授業改善に努めている。	職員	A 75% (94%)	
計画的に地域資源を活用している。	職員	C 57% (44%)	
沖縄型授業づくりによる、授業改善を行っている。	職員	B 70% (53%)	
まとめまでぴったり45分の授業となるように工夫している。	職員	C 57% (71%)	教材研究において、時間配分
授業は、ベルとともに始まり、チャイムとともに終わる。	児童	B 65% (64%)	
・単元テストの正答率(国語・算数 低90%、中高80%)	数値	C 2国(87)、5国(79)、6国(78)、2算(84)、4算(76)、5算(78)、6算(77)	
・全国学力調査(A問題、県平均以上)	数値	C 国語A:県-8.7 算数A:県-9.4	
・標準学力テスト(A問題、期待正答率以上)	数値	C 2年・4年の国語・算数ともに未達成	
朝や放課後の習熟学習の時間の確保により、基礎的基本的な事項の定着を図っている。	職員	B 71% (69%)	
学校は、基礎的・基本的な学習の定着に取り組んでいる。	保護者	A 82% (82%)	
朝の学習や放課後の学習は学力をつけるために役だっている。	児童	A 84% (82%)	
・漢字検定の受検者増加	数値	A 126人 (7月:71人)	

サマースクールは効果があった。	職員	C 55% (43%)	
・学習まもる君90%以上	数値	A 95% (91%)	
家庭では、家庭学習の時間を設定して、家庭学習の習慣化を図っている。	保護者	A 81% (75%)	
形成的評価を授業に位置づけている。	職員	A 90% (75%)	

② 個に応じた指導の充実。

・正答率30%未満の児童数(単元テストは50%)	数値	C 標準学力:2国B(22)、2算B(11)、4国A(2)、4国B(23)、4算A(3)、4算B(34) 全国学テ:国A(3)、国B(18)、算A(9)、算B(48) 単元テ:国(23人:4%)、算(40人:6%)	
単元に入る前に、児童一人一人の実態を細かに把握している。	職員	B 71% (50%)	
実態に応じた補充・基礎・発展的指導の工夫・改善を図っている。	職員	B 71% (60%)	
指導体制や指導方法の工夫改善及び少人数指導の効果的な推進を図っている。	職員	B 62% (67%)	
週案を授業改善のツールとして活用している。	職員	B 71% (75%)	
週案の提出率。	職員	C 52% (95%)	

③ 自主的・自発的な学習を目指し、問題解決のプロセスを重視した問題解決的な学習の推進。

活用力を育成するための授業展開を心がけている。	職員	A 81% (67%)	
「学びのみやこ」による授業改善を行っている。	職員	B 71% (63%)	
B問題の過去問を授業で取り扱っている。	職員	C 33% (38%)	
・B問題の正答率(全国学力調査、標準学力検査)	数値	C 標準学力調査 2国B全国-13、2算B-11、4国B-3、4算B-12 全国学力調査…後日	
・単元テストの思考力等の正答率	数値	A 75% (76%)	
・学習意欲の意識調査(全国学習状況調査)	数値	全国平均以上	国、算、理、総合学習
学習面での学校の課題を把握し、組織的にその解決に向けて取り組んでいる。	職員	B 69% (89%)	

4 豊かな心の育成【総合評価 B】

あいさつ・読書で保護者の評価が低くなっている、取り組みの工夫が必要。  
体験的な学習を計画的に位置づけるとともに、道徳とリンクした年間計画の作成が必要。

① 道徳教育推進教諭を中心とした道徳教育推進体制の充実。

道徳授業を公開した。	職員	B 69% (68%)	
道徳の時間を核として、道徳教育の充実に取り組んでいる。	職員	B 70% (71%)	
「私たちの道徳」を活用した。	職員	A 80% (77%)	
道徳の時間には、体験活動を生かした指導に心がけた。	職員	B 63% (38%)	
命の大切さや思いやりなどを学習した。	児童	A 93% (93%)	
学校は、生命尊重、思いやりなどを指導している。	保護者	A 75% (73%)	

② キャリア教育、食育、人権教育、平和教育、外国語活動などの目標・内容と各教科等と関連づけた計画充実と確実

キャリア教育、食育、人権教育、平和教育、外国語活動などの目標・内容と各教科等と関連づけた計画が作成さ	職員	A 75% (67%)	
--	----	-------------	--

③ 各教科等における地域素材を生かした豊かな体験活動の充実。(職場見学、自然・伝統・文化体験、異年齢集

体験活動は計画的に実施されている。	職員	B 65% (80%)	
学校では、学校外に出かけたり、他の学年と活動することがある。	児童	B 72% (78%)	

④ 生命を尊重する心や態度を育むための自然体験、生活体験の充実。

思いやり活動(清掃・飼育・栽培、ボランティア活動等)の指導の充実を図っている。	職員	B 67% (68%)	
思いやり活動(清掃・飼育・栽培、ボランティア活動等)を行った。	児童	A 82% (77%)	

⑤「言葉づかい」、「挨拶」、「心のみやこ〜7つの習慣〜」への取り組み強化・心を込めたあいさつ運動の実践。

心をこめたあいさつ運動を実践した。	職員	B 75% (71%)	
・生活まもるくん	数値	A 94% (95%)	
我が子は、あいさつができています。	保護者	B 68% (65%)	

⑥読書活動の充実(朝の読書、読み聞かせ、家庭読書の進め)

・読書冊数(低200冊、中140冊、高110冊)	数値	A 全学級クリア	
我が子は読書に親しみ、よく本を読んでいる。	保護者	B 68% (66%)	
読書は好きで、本をよく読んでいる。	児童	A 76% (76%)	

5 健康の保持増進・体力の向上と基本的な生活習慣の定着【 総合評価 A 】

児童の運動量は、体育の時間での改善は見られるが、昼休みの外遊びが減ってきている。全校で課題を共有し、昼休みの時間の確保、遊具の整備、ルール作りなどで、外遊びを奨励する工夫が必要である。

体力テスト・泳力テストでは目標に届かない種目が多い。体育の授業の工夫改善を図る必要がある。

早寝・早起きの生活リズムに若干課題が見られる。保護者との連携を工夫する

① 自ら進んで運動に親しむ資質や能力の育成～体育授業の充実

・体力テスト、泳力テスト(県平均以上)	数値	C 【体力テスト】5男・5種目(8種目中)県平均より低い。女子は、握力以外は県平均より低い。 【泳力テスト】3男4女は県平均並み、4女(-13%) 5男(-21%) 5女(-19%) 6男(-36%) 6女(-50%)	
体育の時間には、運動量の確保を図っている。	職員	A 95% (92%)	
体育の時間では、たくさん運動している。	児童	A 87% (88%)	

②運動や遊びの日常化(学年スポーツ大会、体育朝会、外遊び奨励、徒歩登校奨励、スポーツ活動への意欲喚起)

学校には歩いてくる。	児童	B 70% (69%)	
昼休みは、屋外で体を動かして遊ぶことが多い。	児童	C 44% (51%)	※環境の整備
学年スポーツ大会、体育朝会、外遊び奨励で、子どもたちは体を動かして遊んでいる。	職員	A 89% (84%)	

③健康・安全指導の充実

安全・防災について、自分の身を守る指導を図っている。	職員	A 95% (96%)	
・生活まもるくん90%以上(朝食)	数値	A 98% (97%)	
我が子は、早寝・早起き・朝ごはんなど、生活リズムが整っている。	保護者	A 76% (73%)	
時間・時刻を意識して守るようにしている。	児童	A 87% (85%)	
・生活まもるくん90%以上(起床・就寝時刻)	数値	B 起床83% 就寝84%	
安全や防災について学び、「自分の命は自分で守る」ことをまなんだ。	児童	A 93% (93%)	
学校は、安全や防災について、子どもたちに指導している。	保護者	A 86% (81%)	
食に関する計画にそって指導を図っている。	職員	B 70% (67%)	
食事の大切さを知り、好き嫌いをなく食べようと努力している。	児童	A 89% (91%)	
家庭では、食事の大切さを教えている。	保護者	A 84% (83%)	

6 学校・家庭・地域の連携について【 総合評価 B 】

学校からの情報発信は概ね良好である。  
PTA活動への保護者の参加率が低い。授業参観等はほとんど出席しているので、PTA行事等で参加したくなる工夫が必要だと考える。  
朝のあいさつ運動は、保護者の出席率が悪い、全体的に取り組むを見直してみる必要がある。

① 日常的な情報の発信により、教育活動への理解を深める

学校の活動について、保護者に発信している。	職員	A 85% (86%)	
-----------------------	----	-------------	--

学校は、たよりなどを通して、学校の活動について知らせている。	保護者	A 89% (89%)	学級だよりを出してほしい
学校教育説明会実施、学校評価と結果公表等実施状況	数値	2月実施予定	評価結果は公表済み

②PTA活動、地域の諸行事等への積極的な参加・連携・協力により、家庭や地域との連携を深める。

PTA活動や地域の諸行事に積極的に参加している。	職員	B 73% (91%)	
学校行事やPTA活動に積極的に参加している。	保護者	C 42% (34%)	
学校行事やPTA行事は、参加しやすいように工夫されて	保護者	B 66% (65%)	

③家庭・地域・関係機関と連携・協力し、安心・安全な学校づくりを推進する。

関係機関との関係が図られている。	職員	B 74% (73%)	
あいさつ運動の保護者参加率。	数値	C 16% (11%)	